

「東京の土壁の家」完成見学会

未来に伝えていく価値ある日本の技を紹介します。

主催：一般社団法人東京建築士会 企画：環境委員会



2018年10月22日撮影 北側・西側の建物外観と大和堀



4月6日 西川材杉の製材作業



6月19日 手刻み加工による部材継手



6月30日 上棟時の架構全景



7月17日 竹木舞土壁下地



7月13日 トントン下地燻銀和瓦葺き



8月18日 焼き杉板制作作業



8月21日 妻壁板庇の水切板金取付



10月4日 土佐漆喰金鍍押え仕上げ



10月22日 焼杉羽目板と木格子



10月22日 土佐漆喰金鍍押えの外壁



10月22日 開口部と軒下の納まり



10月22日 足場撤去直前の東側外観

気候風土適応型住宅

「東京の土壁の家」完成見学会

木・土・紙を使った伝統的な家づくりを設計者が解説します。

主催：一般社団法人東京建築士会 企画：環境委員会

○主旨

建築物のエネルギー消費性能に関する法律は、2020年の小規模建築物の義務化が予定されています。このまま進むと、各地の気候風土と文化に合わせてつくられてきた伝統的木造住宅を建て難くなるのが危惧されました。しかし、国土交通省より、2016年3月末に「気候風土適応住宅のガイドライン」が示されたことにより、伝統的木造住宅の継承の道がひらかれました。

今回、国土交通省・サステイナブル建築物等先導事業（気候風土適応型）に、東京で初めて採択された伝統的木造住宅の竣工が近づいてまいり、見学会を企画し、皆様を紹介いたします。

東京都練馬区内に建設されたこの住宅は、手刻みの継ぎ手・仕口や貫・差物による木組み、土塗り壁（土佐漆喰）内外真壁仕上げ、屋根（瓦）・壁（焼杉板）・建具（襖）・畳（琉球畳）等、職人の技による伝統的な手法で家全体が構成されています。

この見学会では完成した「東京の土壁の家」を設計者自らが素材と工法について解説いたします。きっと、普段なじみの少ない木、土、紙という自然素材を使った家を見学する絶好の機会となるはずです。気候風土に適応する日本の家づくりについて考えるきっかけになればと考えています。

○申込方法

東京建築士会 HP もしくは下記 URL・QRコードよりアクセスいただき、申込フォーム必要事項を入力して下さい。



URL <https://goo.gl/forms/1lojFjd0YBgXzWOC2>

○講師

設計者

高橋昌巳（当会環境委員会委員・同気候風土 WG 長）

講師略歴 1953年 東京都生まれ
1975年 芝浦工業大学建築学科卒業
現在 (株)シティ環境建築設計代表
芝浦工業大学建築学部建築学科非常勤講師

○日程

平成30年12月20日（木）

午前回：10時半～ 午後回：13時半～

見学時間は1時間半程度の予定です。お申し込み時にどちらの回を希望するか選択して下さい。

○会場

東京都練馬区内（西武池袋線沿線 駅からの距離約2km）

※詳細な住所は見学者には申し込み後、お知らせ致します。

※駐車場のご用意はありませんが、バス停が近くにあります。

○定員 各回とも25名限定

※連続講座を受講中の方は申し込みをお控え下さい。

※申し込み先着順

○参加費

2,500円（建築士会会員）

4,000円（一般）

1,000円（学生）

○注意事項

本見学会は建て主のご厚意で開催されます。入居前の開催ですので、手袋とスリッパを用意します。着用願います。各回とも混雑が予想されますので、時間に余裕を持ってお越し下さい。

○お問い合わせ

（一社）東京建築士会事務局 担当：遠藤

TEL 03-3527-3100

E-mail event@tokyokenchikushikai.or.jp

個人情報の取り扱い：本申込書に記載頂いた情報は適切に管理し、本セミナーの運営及び、東京建築士会が開催する他のイベントの案内・照会の為に利用する場合があります。